授業科目名・形態	生活支援技術論Ⅰ　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	今野　修	実務経験の有無	有	開講期	1年前期
科目ナンバリング	W4-1033c				

【授業の主題】

介護を必要とする人の生活支援を行うため，介護実践の根拠となる人間の心理，人体の構造や機能を学んでいく。その上で，利用者の生活を支える介護実践と，人間の心理や人体の構造と機能との関連を学ぶ。

【到達目標】

1) 介護実践に必要な観察力，判断力の基盤となる人間の心理，人体の構造と機能についての基礎的知識を理解できる。
2) 身体各部位の名称，医学・心理学用語などの専門用語を理解できる。
3) 生活支援を行う際に必要となる知識として，生活支援の場面に応じた，こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が，利用者の生活に及ぼす影響について理解できる。

【授業計画・内容】

第 1 回　はじめに，健康とは，人間の欲求，自己実現と尊厳
第 2 回　こころのしくみ①　認知のしくみ，学習・記憶・思考のしくみ
第 3 回　こころのしくみ②　感情・情動のしくみ，意欲・動機づけのしくみ，適応のしくみ
第 4 回　からだのしくみ①　細胞と遺伝，脳・神経系，感覚器系
第 5 回　からだのしくみ②　骨・関節・筋肉系，呼吸器系，循環器系
第 6 回　からだのしくみ③　消化器系，泌尿器系，生殖器系，内分泌系，血液・体液・リンパ液
第 7 回　移動のしくみ
第 8 回　移動に関連した心身の機能低下が及ぼす影響
第 9 回　移動に関連した変化への気づきと対応
第 10 回　身じたくのしくみ
第 11 回　身じたくに関連した身の機能低下が及ぼす影響変化
第 12 回　身じたくに関連した変化への気づきと対応
第 13 回　食事のしくみ
第 14 回　食事に関連した心身の機能低下が及ぼす影響
第 15 回　食事に関連した変化への気づきと対応

【授業実施方法】

基本は講義形式で行います。介護を必要とする人のこころの働きや，人体の構造と機能を理解していくためには，対象者への「みえる力」が必要になります。模型や視聴覚教材などの活用，デスカッション等を通して，「みる力」を養っていくための能動的な学びの場を提供していきたいと考えております。

【事前・事後学習】

講義内容に応じて毎回 30 分以上の予習・復習を行ってください。

【主な関連する科目】

心理学，生命科学，医学概論，エイジング論，高齢者と健康，日常生活技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会：最新介護福祉士養成講座 11 心とからだのしくみ 第 2 版，2022.

【参考文献】

秋山昌江, 白井孝子 : からだからケアがわかる本　新刊　しくみ・変化・ケアのポイント, 中央法規出版.

【成績評価方法】

筆記試験 80%、課題レポート提出物 10%，演習への取り組み等 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

病院等で多くの高齢者への看護の経験を積んできました。その経験を生かして、医療職と連携して介護福祉士の専門性が発揮できるための様々な学びを一緒に行っていきたいと思います。

【学生へのメッセージ】

身体各部の名称，医学・心理学用語などの専門用語を繰り返し復習しながら学んでいきましょう。